

*The 20th Annual Meeting of
the Japanese Association of Dermatologic Surgery*

第20回日本皮膚外科学会
総会・学術集会

プログラム・抄録集

会期：平成17年8月27日(土)、28日(日)

会頭：熊野公子

会場：神戸商工会議所会館 神商ホール

〒650-8543 神戸市中央区港島中町6-1
(ポートアイランド内)

事務局：兵庫県立成人病センター

事務局長：村田洋三

〒673-8558 兵庫県明石市北王子町13番号

電話：078-929-1191

Fax：078-929-2380

E-mail: FZJ06103@nifty.com

歓迎のご挨拶

第 20 回日本皮膚外科学会学術集会が熊野公子会頭の下，ここ神戸の地で開催されることに衷心よりお慶びを申し上げます．全国から関係の皆さまをお迎えするにあたり，ひとこと歓迎のご挨拶を申し上げます．

この度の学会は日本各地を巡って再び神戸に帰ってきた記念すべき集会との事です．数年前，本会の機関誌発行が始まった時に，熊野先生から「皮膚外科」なる学会名を聞いた記憶があります．私が医師になった頃の大学講座名は皮膚泌尿器科で，なぜ皮膚と泌尿器が同じ科なのかと疑問を持ったものです．医学の進歩と共に学会も分化しますが，身体全体の凡そ皮膚のあるところ全てにメスを加える当センターの皮膚科は將に皮膚外科の名に相応しいと感じ入りました．独特の方針で編纂されている本学会誌やその中の歴代会長による総括を読ませていただきますと，皮膚外科を専攻する皆さんは身体をぐるりと包み込んで五体を護る皮膚 内臓の鏡 に限りない愛情をもつロマンチストであることが良く分かります．

神戸は大震災から丁度 10 年が経過しました．あの時に全国から頂いた救援にこの場を借りて御礼を申し上げたいと思います．表通りから一歩中に入ればまだ更地があり，心の中には爪痕も残っていますが，復興は大きく進み神戸の街は以前にも増して輝いています．時間の余裕がございましたらぜひ山に海に，あるいは街中に足を延ばされ，神戸の雰囲気十分に味わって頂きたいと思います．最後になりましたが，神戸における集会が皆様の学術発展と親睦にお役に立つことを祈念申し上げます．

平成 17 年 7 月

兵庫県立成人病センター
院長 坪田紀明

ご挨拶

皮膚外科学会も20年という年数を重ねました。皮膚外科学会そのものの長期フォローの結果を検討するのもよいかも知れません。というわけでもありませんが、今回のテーマ演題は「長期フォローから経験したこと」としました。この学会のことではありませんが、学会演題を見ていますと、「XXXの一例」と題し「斯く斯く然々の治療を行い経過順調である。現在術後3ヶ月である。。。。」といった類に屢々出くわします。できれば2-3年、でなくても最低1年位は様子を見てから報告してほしいな、と思うのです。

天の邪鬼な私たちはその逆をいって、長期フォローから疾患の経過の意外な面を見ることは重要かと考えます。もちろん、長期フォローによって経験するのは、そうした特異な症例ばかりではなく、問題なく経過することが大多数です。むしろ、こうした標準的な症例の積み重ねはもっと重要かも知れません。エビデンスを高める地道な発表も歓迎します。

皮膚外科の手技的な問題や、疾患の理解も重要ですが、医師として最も基本的な生と死の問題を一度この学会で取り上げたいと常々思っていました。20回という節目を開催させて頂くにあたり、このことについて考える場を特別講演におくことを躊躇なく選びました。

「死はなぜ進化したか」の名訳をされた筑波大学名誉教授の岡田益吉先生には、生物学からみた動物の生と死、お茶の水女子大学教授の波平恵美子先生には、人間学からみたひとの生と死についての御講演をお願いしています。生と死に関する演題も一般演題にご応募頂ければ幸いです。

阪神淡路大震災から10年が過ぎました。
自然の中でのわずかな変動の前で、人間はかくも小さく弱いものか、と思い知らされました。
その中で助け合う心は生と死を前にする医師と患者の心にも通じるものでしょう。

平成17年7月吉日

第20回日本皮膚外科学会総会・学術集会
会頭 熊野 公子